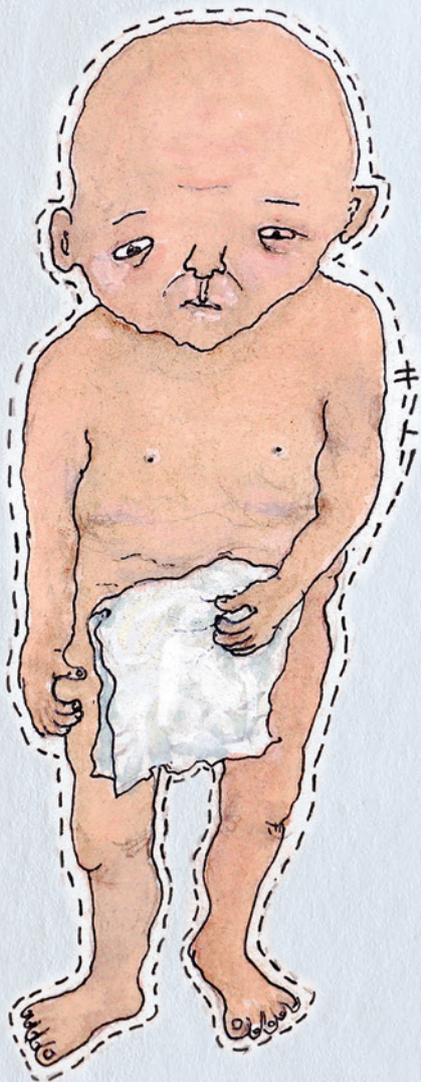


Nasu Interpretation's Action

那須インタープリテーション's アクション | 2025-2026



那須を大好きになる
ストーリー集

version_01



地域の人からは、“なす爺”と呼ばれている。
那須生まれ・那須育ち。年齢不詳。
この地の成り立ちや風習まで、
「何でも知っている地域の生き字引」。
シャイだが話し好きで「那須のストーリー」を語らせたら
右に出るものはいない、らしい。

Main Theme

Prologue

プロローグ

那須エリアは、自然の圧倒的なポテンシャルはあるが、
故に、過酷な環境でもあった。

そうした荒地を、先人たちは苦勞しながらも、入植者と
地域の人達が互いに助け合い、開拓し、厳しい自然を、
豊かな恵みに変えて来た。

今の那須エリアを支える自然の豊かさと人を受け入れる
土壌は、元から与えられたものではなく、自然と人が葛
藤しながらも光を見出し、助け合いと調和の精神を受け
継ぎながら、弛まぬ努力を続けて来た結果である。

那須エリアを訪れる方には、そうした豊かな恵みを体
感いただきながら、人と自然の厳しくも希望溢れる大地の
痕跡を通し、ほっと一息つきながらも、これからを生きて
いく活力を取り戻してほしい。



ストーリーを伝えるための、 重要な資源とテーマ

那須を大好きになるストーリー集における資源とは、その場所が持つ特別な価値や魅力を伝えるための重要な要素のことです。それは目に見える自然や建造物だけでなく、その場所の歴史や文化、人々の営み、そこで起きた出来事など、目に見えないものも含まれます。これらの資源は、単独で存在するのではなく、互いに深く関連し合い、その地域ならではの特徴を作り出しています。

テーマ（各項目のタイトル）は、これらの資源が語る物語の中心となる考えや概念のことです。それは単なる事実の羅列ではなく、その場所の本質的な価値や意味を表現するものです。テーマは来訪者に深い理解と感動を与え、その場所との個人的なつながりを見出すきっかけとなります。

那須エリアを 4 つの項目に分けた理由は、この地域の本質的な特徴を、分かりやすく、かつ深い意味を持つ形で伝えるためです。

「火山の物語」と「水の物語」は、那須の自然環境の核心部分を表しています。これらを 2 つに分けたのは、火山活動によって形作られた地形と、そこから生まれる温泉や湧水が、それぞれ異なる、しかし密接に関連した物語を持っているからです。火山は那須の大地の形成と変化を語り、水は生命と暮らしの源としての役割を持っています。

「人の物語」は、この自然環境の中で人々がどのように暮らし、文化を築き、地域を発展させてきたかを語っています。これは火山と水の物語と切り離せない関係にあり、自然と人間の共生の歴史を示しています。

「御用邸の物語」を独立した項目としたのは、皇室との関わりが那須の歴史と発展に特別な影響を与え、地域のアイデンティティの重要な部分となってい



るからです。これは単なる建物の歴史ではなく、那須という地域の価値が高く評価され、大切にされてきた証でもあります。

これら4つの物語は、それぞれが独立しているようで、実は深く結びついています。火山活動が生み出した地形により恵みを受けながらも人々は努力をし、その努力によって得られた水が人々の暮らしを支え、そして地域の魅力が皇室にも認められた。それこそが地域の誇りとなっている—このように、4つの物語は互いに響き合いながら、那須という場所の豊かな個性を形作っているのです。

このように物語を整理することで、来訪者は那須の持つ多面的な魅力を理解しやすくなり、また地域の人々も自分たちの地域の価値を改めて認識することができます。



Index

Prologue	02
ストーリーを伝えるための、重要な資源とテーマ	03
Index	05
インタープリテーション全体計画を活用してこんな風になって欲しい	06

自然の圧倒的なポテンシャル : ① 火山の物語

 火山が生んだ6つの泉質	09
 火山により生み出された地形	10
 厳しくも恵みをもたらす母なる山	11
 地形の息吹を感じる登山	12

自然の圧倒的なポテンシャル : ② 水の物語

 水と命の源流	15
 お米とお酒の美味しい秘密	16

暮らしと風土を生み、歴史を紡いできた人のポテンシャル : ③ 人の物語

 自然への感謝を伝える山岳信仰	19
 街道による交流と足跡	20
 那須湯本地区に伝わる伝承	21
 人と自然が紡いだ奇跡の風景	22
 二つの開拓	23
 自然と人が生み出した「食材の宝庫」	24
 体で感じる自然と人の物語	25
 心豊かに過ごす時間と空間	26
 「居心地」という価値	27

皇室が愛し地域からも愛された那須のポテンシャル : ④ 御用邸の物語

 皇室が愛した那須	30
インタープリテーションとは	31
那須地区におけるインタープリテーションの目的	32
那須 IP 計画関係団体・関係者	33

那須を大好きになるストーリー集を 活用してこんな風になってほしい

このストーリー集が生み出す新たなつながりは、那須の魅力さをさらに広く深く伝え、訪れる人々がこの地を愛するきっかけとなるはず。私たちは、その未来を信じ、地域全体が一つとなって新たな物語を紡ぎ続けていきたいと願っています

観光業

訪れる人々が那須の自然や文化を深く感じられる旅にするためのヒントに。雄大な山々や里山の風景を楽しみながら、その背後にある歴史や物語がさりげなく伝わり、心に残る体験となるように。

宿泊業

滞在を通じて那須の魅力を感じてもらおうおもてなしとして。地域に根ざした温かなサービスで、訪れた人々が那須の人々の暮らしや文化に触れ、心地よい時間を過ごせるようになるためのアイデアとして。

飲食業

那須の恵みを味わい、その背景に想いを馳せる食事。地元の食材を使った料理を楽しみながら、その食材が育まれた風土や季節の移ろいを感じられるようにするために。

農業・地場産業

生産品の特徴を表すための物語の構築に。また那須の自然とともにある暮らしを共有し愛着を持ってもらうために。地域の産品や手仕事を通じて、那須で培われた知恵や技が伝わり、訪れた人々がその価値を感じ取るきっかけに。

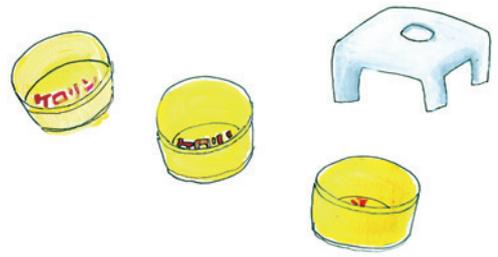
サービス業

日常の中で那須の魅力さをさりげなく。接客やコミュニケーションの中で、那須の美しさや文化が自然と伝わり、訪れる人々の心に響くように。

教育関係

那須の自然や文化を学び、未来へとつなげる機会を創出するために。次の世代が地域への愛着と誇りを持てるように。体験活動や交流を通じて豊かな感性を育み、那須との深いつながりを感じられるように。

このように、各業種がそれぞれの場面で那須を大好きになるストーリー集を活用し、那須の資源をつなげて伝えることで、訪れる人々に那須への深い愛着を育ててもらいたいと考えています。そして、地域の魅力が最大限に引き出され、那須を訪れる人々が増え、何度でも足を運びたい場所へと成長していくことを願っています。



自然の圧倒的なポテンシャル

①火山の物語



なす爺は温泉好き。
那須に6つある異なる泉質の温泉
に日替わりで入浴するのが常。
浴衣も手拭いをいつも肌身離さず
持ち歩く。那須の温泉を語らせたら
右に出るものはいない、らしい。



Nasu Interpretation's Action

1400年の歴史を持ち、6つの泉質が

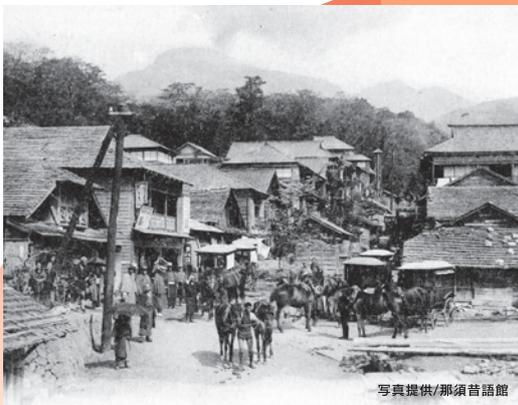
味わえる那須温泉は、今もなお、訪れる人々に癒しと

独特の自然美を提供する日本を代表する温泉地である。

那須エリアの地形は過去160万年前から幾度となく起こった地球の火山活動を今に伝えてくれています。那須連山は那須火山帯の南端に位置しており、50万年前に甲子旭岳(1,835m)で始まった火山活動によって形成されました。約16,000年前の噴火により、カルデラに茶臼岳(1,915メートル)ができました。現在、茶臼岳は那須連山の中で唯一の活火山であり、驚くべきことに、現在の形状が形成されたのは最近のことなのです。茶臼岳の火口から流れ出した安山岩はすぐに固まり、今日見られるむき出しの頂上部分を形成しました。茶臼岳の西側の山頂付近と、南麓の「殺生石」付近に噴気孔(火山噴出孔)があります。噴気孔からは、約90℃の非常に高温の亜硫酸ガスが噴出しており、山頂近くの亀裂部分は、「無間地獄」として知られています。

那須温泉郷は、この活火山に由来して多様な温泉を楽しめる温泉地で源頼朝、松尾芭蕉、日蓮聖人が入ったと言われています。特に1300年続く栃木県最古の温泉『鹿の湯』や映画のロケ地(テルマエロマエ)ともなった『北温泉』は日本を代表する湯治場です。『鹿の湯』は郡司の狩野三郎行広が狩りをしていて射損じた白い鹿を追いかけて、現在の鹿の湯あたりという谷に分け入ったところ、自ら温泉の神と名乗る白髪の老翁が現れ、鹿はこの先の温泉で矢傷を癒している、万病に効くその温泉を広く世に知らせるよう告げたそうです。発見した温泉を『鹿の湯』と名付けました。白髪の老翁を温泉神社とした社を建立し、鹿角を奉納したと言われています。温泉神社では鹿の湯の発見者:狩野三郎行広も祭られており、本殿の太鼓には鹿の角をモチーフとした卍をひっくり返した模様が描かれています。

歴史ある温泉街では、源泉掛け流しの温泉や、自然を活かした露天風呂が楽しみ、酸性からアルカリ性まで幅広い6つの泉質が揃う那須十二湯が特徴です。1400年の歴史をもち、栃木県最古の温泉として、また、江戸時代の温泉番付で2位(東の関脇)でもあった、古より多くの人々に癒しと心の支えとなって来た、日本を代表する温泉地として、今もなお、訪れる人々に癒しと独特の自然美を提供しています。



写真提供/那須昔語館

大正3年~10年の湯本

那須エリアの地形は、**1億年以上前**からの地球の営みと、それらが人の営みの基礎になっていることを**今**に伝えている。

那須の地形は、古くは1億年以上前に海底で堆積した地層が造山運動で陸になった八溝山地があり、その後は、今の福島県側から宇都宮方面に大きな川が流れ、那須野が原付近には大きな湖がありました。

その後、160万年前に、今の福島県会津地域で始まった火山活動により、幾度も大噴火と火砕流を起こし、120万年ほど前には、栃木県側にも流下し、あたり一面100mを超える厚い火砕流堆積物で覆われました。これが、芦野石です。那須高原の地下にも広く厚く分布しています。その後、50万年ほど前、甲子旭岳、30万年前に三本槍岳、20万年前に朝日岳、南月山、1万6千年ほど前に茶臼岳が噴火し、おおよそ、今のような姿になり、一番最近の噴火は室町時代の1408～1410年に、現在の山頂付近で溶岩が噴出しました。

芦野石は、芦野地区で産出され、耐久性と耐水性能が優れ、古くから神社仏閣の基礎や階段、塀、蔵、墓石など多様な用途に使用され、栃木県の大谷石と並ぶ名声を得ました。芦野地区にある隈研吾氏設計の「石の美術館」など、現代建築にも活用されています。芦野地区を訪れ、那須連山より古くから存在する芦野石に直接、触れることで、地球の大きな流れを感じていただくことができるとともに、那須岳が比較的新しい時代に創り出されたからこそ、地形等の厳しさにより、明治の開拓では手が付けられず、その後の戦後の開拓の苦労につながっていることが推察されるなど、那須エリアの自然・歴史・暮らしの基礎に、地球の営みがあることを教えてくれています。また芦野石の特徴でもある年月とともに風格を重ねる表情は、その歴史さえも伝えているのかもしれません。



茶臼岳噴火口



Nasu Interpretation's Action

那須連山は古より、那須に生きる動植物や人々にとって、

厳しくも恵みをもたらす**母なる山**である。

日光国立公園の1/3を占める那須連山は、現在も噴煙を上げる茶臼岳をその象徴とし那須連山の総称「那須岳」として地元から親しまれています。この活火山が古からの噴火を続けることで、多様で美しい山容や湿原の風景が作られ、雄大な大自然を感じることができます。特に、火山の影響により森林限界が低く高山帯の荒々しい雰囲気やその分眼下の関東平野の眺望を楽しめる山頂景観から、共同利用模範牧場（日本遺産）の那須連山をバックにした草原景観などに代表される、広大な緑の裾野がゆるやかに広がる景観の対比や、裾野に目を移すと、酪農や農業、人の営みと自然が近いことが、四季折々の風景と相まって、那須らしい独特の空気感を生み出し、訪れる人々を癒します。

また、火山活動は、豊富な温泉を生み出すと共に、動植物の生息にも影響し、春は火山性の植生を代表するツツジ類の大群落、秋には鮮やかな紅葉が、場所と標高を変えながらロングランで楽しめるのも那須の特徴です。他にも、昭和天皇が発見されたナスヒオウギアヤメや、板

室の野生ホタルの乱舞、アカバナシモツケソウやガンコウラン群落などの希少な高山植物、秋の登山道沿いのリンドウ類、冬は雄大な雪稜とふもとからも見える火山噴煙など、大自然が作り上げた四季折々の風景を挙げれば枚挙に暇がありません。また、これら希少な植生が、関東の中では比較的シカの被害が少ない場所として、今後、ますます重要性が増すことが想定されます。

那須連山の火山と気候は、豊かな自然や温泉だけでなく、命を育む水をもたらす、米・野菜・乳製品などの食や、酪農業や観光業など人々の暮らしにも深く結びつき、古くは山岳信仰など、文化や芸術を育む重要な源ともなり、今もなお、この地に暮らす人々は、一日一度は山の様子をうかがうなど、那須連山と共に暮らしています。

また、古くからみちのくと関東の境界を形作る山城として、文化や交流の結節点としても、重要な役割を果たして来ました。



秋の那須連山

那須岳 登山は 火山のパワー

を感じさせ地球の脈動と火山活動
によって作られた地形にふれることができる登山である。

那須岳(茶臼岳)は、今なお活発に活動をしている活火山であり、地球の息吹ともいえる大地のパワーや火山のエネルギーを感じさせてくれます。那須岳を登山すると、その火山のエネルギーを伝えてくれる場所がいくつもあります。

そのひとつが、硫黄鉱山跡です。那須岳の硫黄鉱山の歴史は古く、江戸時代から硫黄とミョウバンの採掘で有名な山でした。那須岳で採掘された硫黄は、火薬の原料として利用され、黒羽藩が江戸幕府に提供していました。のちに硫黄の運搬風景は観光名所にもなり、昭和30年頃まで(昭和40年代半までという情報もあり??)採掘が続けられ那須の人々の生活を支え、那須湯本温泉街も活気であふれていました。

もうひとつは、今でも熱い噴気が噴出している噴気孔です。ゴォーというまるでジェット機のような音とともに、まさに、火山を肌で感じられる現象です。火山ガスにより草木が生えない有様から「無間地獄」とも呼ばれています。

いたる所から噴気が噴出し足元に硫黄の結晶が広がっている様子だけでなく山中にあるポコポコと音を立てて湧き出す源泉の湧出など、今もなお、火山が生きていることを感じさせてくれます。

こうした現象は、山頂付近ではありません。殺生石や鹿の湯など那須湯本温泉周辺に漂う硫黄のにおいも、地球の息吹を感じることができるひとつの体験です。

火山により生み出された地形



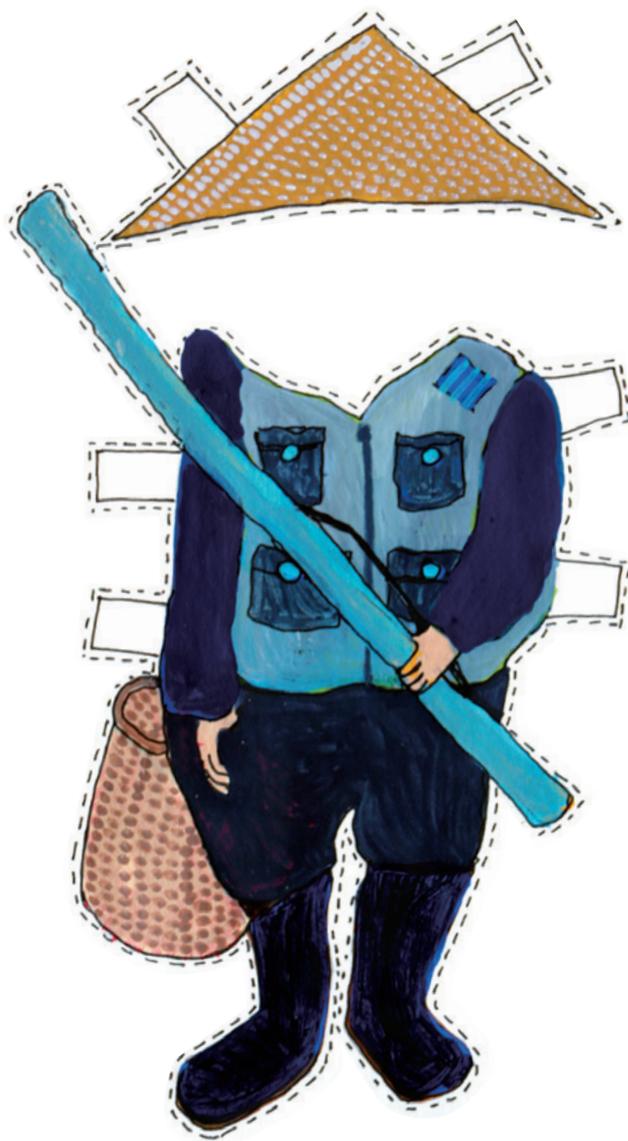
写真提供/那須管轄館

硫黄鉱山の作業風景



自然の圧倒的なポテンシャル

② 水の物語



なす爺は釣り好き。
毎年アユ釣りの解禁日が近づくと、ソワソワして眠れないらしい。
「雷と那珂川のおかげで米や酒も美味しい」が口グセ。
那珂川と酒を語らせたら右に出るものはいない、らしい。



Nasu Interpretation's Action

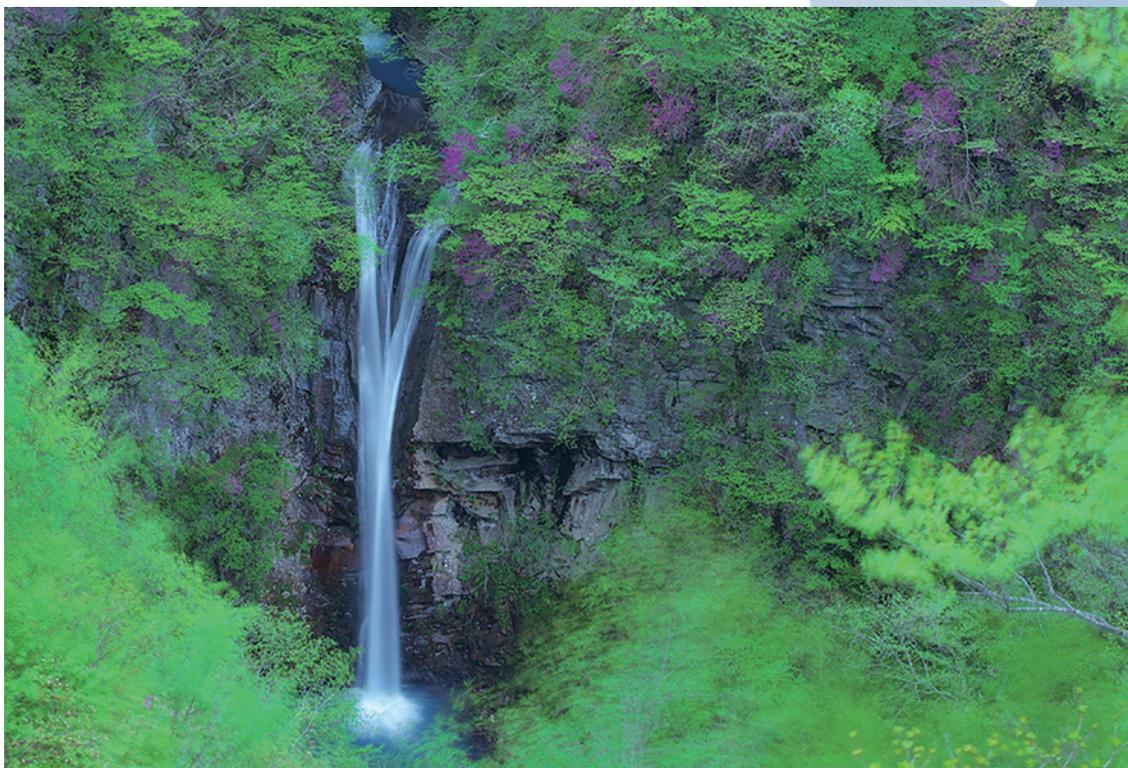
那須エリアから始まる水源は南東北～北関東の太平洋～日本海まで
広く流れ出し、森里川海の多様な暮らしを育む、

水と命の源流

である。

那須エリアには那須連山に降った雨や雪が多く、沢を作り出し、山麓の多様な命や暮らしや産業を支える大切な水をもたらす源流となっています。長い年月を経て複雑な地形を作った結果、その範囲は、広く、那珂川(栃木県、茨城県)、阿武隈川(福島県、宮城県)、阿賀川・阿賀野川(福島県、新潟県)にまたがり、太平洋と日本海の分水嶺、東北と関東の分水嶺にもなっています。

それぞれの川の源流では、山の中腹からの湧水や、多くの沢や溪流が徐々に集まることによって、次第に大きな河川へと姿を変えながら、森を支え、里では人々の生活を潤し、多様な命を育み、豊かな海をつくり出すまでの、壮大な山から海へと注ぐ長い旅が那須エリアから始まっていきます。



駒止の滝

Nasu Interpretation's Action

那須エリアのお米やお酒の美味しさは、

水をはじめとする**多くの自然と**、
携わって来た人々の**協同の証**である。

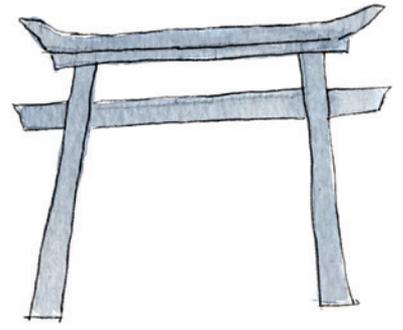
那須エリアは、那須岳に端を発する澄んだ水と寒暖差のある気候で、自然の恵みを活かし人々の知恵が作り上げた米の産地です。古くから米づくりが盛んな大田原市は、その名を「大俵」に由来しています。全国コンテストで一位になっているブランド米「那須ひかり」は、普段のご飯でもツヤがあり冷めても美味しさを損なわない特徴があります。なお、このエリアには数多くの用水組合がありミネラル豊富な水を先人たちの代から大切に山から直接取水して米を育てていることも、美味しさの大事な要素となっています。また、農業と酪農が隣接し合っていることから、もみ殻と藁を酪農に、牛糞を堆肥にと、循環型農業の伝統が深く根付いていることも美味しさの秘密です。また、栃木は夏の雷が全国一多いこ



那須疏水

とで知られていますが、これは、関東平野で暖められた空気が日光連山や那須連山にあたり急激に冷やされることで、雷雲が生み出されやすいことに起因しているそうなのですが、実は、この雷が、稲がたくさん水を必要とする時期に多くの雨水をもたらすとともに、近年の研究では、雷により、空気中の窒素が、窒素化合物となって土壌を豊かにし、お米の美味しさが増すことがわかって来たそうです。雷の漢字が「雨に田」と書くことや、稲妻が「稲の妻」と書くなど、古来からの日本人の感覚は正に的を得ていたようです。那須エリアのお米の美味しさには、多くの自然の力と人の力が融合されていたようです。また、那須岳に端を発する那珂川の伏流水や那須連山の雪解け水などの清らかな水は、美味しいお米と相まって、100年以上の歴史がある日本酒造りの盛んな地です。今も大田原市に6つの酒造が現存し、上質な酒造りが行われています。また、明治以降は火山由来の良質な土壌を活かした葡萄栽培も盛んでワインの産地としても有名です。2017年には「どぶろく・ワイン特区」に認定されたことで、どぶろく・地ワインや地ビールも人気になり、お酒に精通した店主がいる酒屋で地元の酒を購入することもできます。





暮らしと風土を生み
歴史を紡いできた人のポテンシャル

③ 人の物語



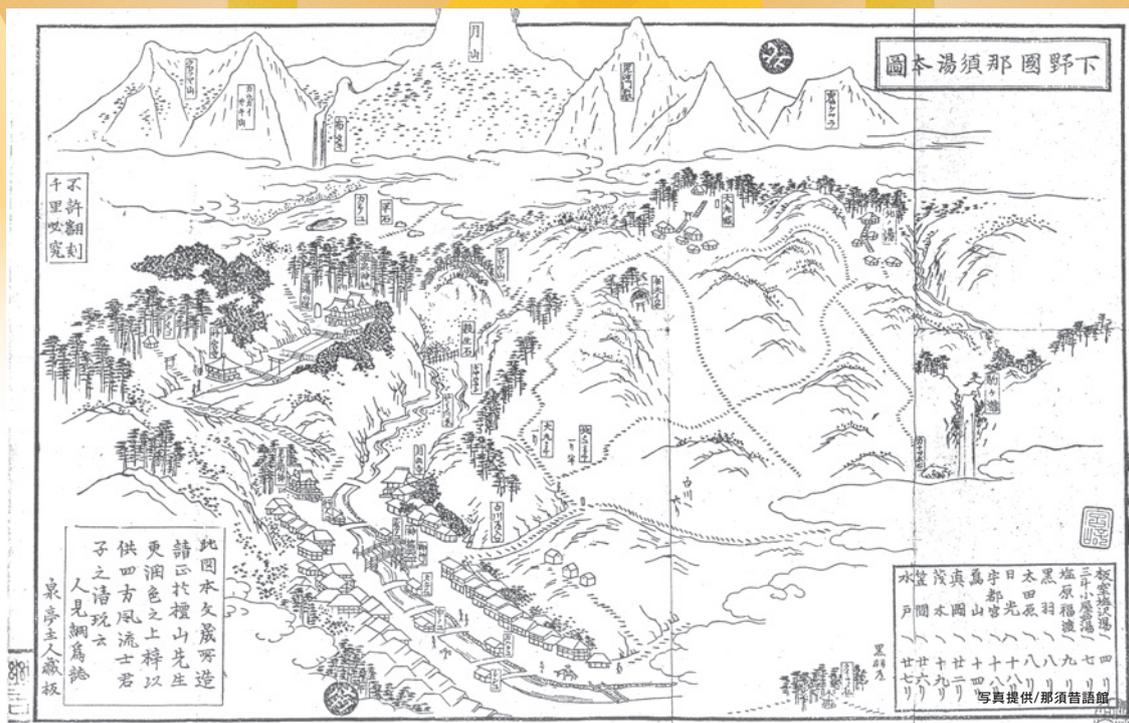
なす爺は信心深い。
山岳信仰が盛んだった土地柄、
初詣はあちこちに出没する。
もしかすると厳しい土壌だった
この地を拓いた先人たちへの感謝
なのかも。
那須の開拓史を語らせたら右に
出るものはいない、らしい。

那須温泉には 源泉を御神体とした

山岳信仰の歴史があり自然への感謝や畏怖の念を感じる
自然崇拝の象徴ともなっている。

那須湯本温泉では、かつて1600年後半の江戸時代から昭和初期にかけて「高湯山信仰」と呼ばれる山岳信仰が盛んであったことから、当時の信仰の様子を感じられる石造物が今もなお立っています。高湯山信仰の御神体は那須岳の麓にある「御宝前」と呼ばれる温泉の源泉であり、湧出する温泉の成分である水酸化鉄が長い年月をかけて織りなした神秘的な岩壁です。また板室地域では同じく「御宝前」を御神体とした「白湯山信仰」も存在しており、「高湯山」と「白湯山」という二つの信仰が存在する霊場でした。現在の茶臼岳を『月山』、朝日岳を『毘沙門ヶ嶽』、御神体の御宝前がある源泉を『高

湯山』と呼び3つに登拝することを三山掛けと呼んでいました。とても険しい行人道で登拝を行った修行目的や五穀豊穰や雨乞い、成人儀礼として那須岳麓地域から数多くの人々が登拝に訪れ、自然への感謝や畏怖の念を感じる自然崇拝の対象とされていたことが当時の様子から伺うことができます。また当時は登拝前の身を清めるための垢離を那須湯本温泉で数日間行い、水垢離に使用するための行人湯が設けられていました。今現在も那須湯本温泉や板室地域ではその当時の名残を感じることができます。



鳥瞰図



Nasu Interpretation's Action

那須エリアを通る多くの**街道**は、
 京の都や陸奥(みちのく)との**交流**がつくった**歴史や文化、**
先人の足跡を、今に伝えている。

那須エリアは、古くから関東と奥州を結ぶ重要な交通拠点として、多くの歴史ある街道が通る地域です。

中でも、古代、飛鳥時代701年の大宝律令により整備された、京の都と陸奥の国を結んだ東山道が通っていました。東山道は、滋賀から岐阜、長野、群馬、栃木を経由し陸奥・出羽に至るもので、大和朝廷からすれば、みちのくの蝦夷(えみし)討伐のための道でもありましたが、そのことにより、源義経など、多くの著名な武将等も那須エリアを歩いており、今に続く、都との交流を示す文化や芸能なども残されています。その後、中世では、「いざ鎌倉」のための、鎌倉街道も整備され、江戸時代においては、奥州街道(日本橋～青森)(奥州道中はこの内、宇都宮～白河)が整備され多くの参勤交代にも利用されたほか、芭蕉が歩いて「奥の細道」を旅した

のも、この頃(1689～1691年)であり、那須エリアにも多くの俳句が残されています。

また、那須エリアには、会津中街道もあり、これは日光を通過して会津若松へ至っていた会津西街道が、江戸の5代将軍綱吉の頃起きた日光大地震(1683年)により不通になったため開削された、氏家から矢板を経て那須野ヶ原に至り、板室、三斗小屋、大峠を越えて会津若松に至る道であった。こうした多くの街道が整備された那須エリアは、白河の関に代表されるように、まさに、関東と陸奥の境界であり、武将たちのほか、様々な物資とともに、文人墨客が行きかい、交流による文化が残されました。現在も東京からのアクセスが良く、旧街道の散策やサイクリングが楽しみながら、松尾芭蕉ゆかりの地や源義経の伝説を訪ね、歴史と文化を体験することができます。



遊行柳

史実や 伝承・伝説に彩られた、 那須エリアを代表する古来からのパワースポットである。

那須湯本地区は、那須を代表する古来からのパワースポットであり、数々の伝説や史実に彩られた特別な場所です。鹿の湯の発見・開湯以来、1,390年以上の歴史を持つこの地域は、那須岳に湧く温泉の源泉を御神体とする深い山岳信仰と温泉文化が融合し、自然と人々の営みが渾然一体となった空間が広がっています。鹿

の湯の伝承や、「九尾の狐」が姿を変えた殺生石の伝説、那須与一が奉献した温泉神社の鳥居など、歴史的・霊的な見どころがコンパクトにまとまっており、那須エリアの象徴ともいえる存在です。この地を訪れると、自然への感謝と畏敬の念を強く感じることができ、特別な時間を過ごすことができるでしょう。



九尾の狐のイラスト



玉藻の前のイラスト



Nasu Interpretation's Action

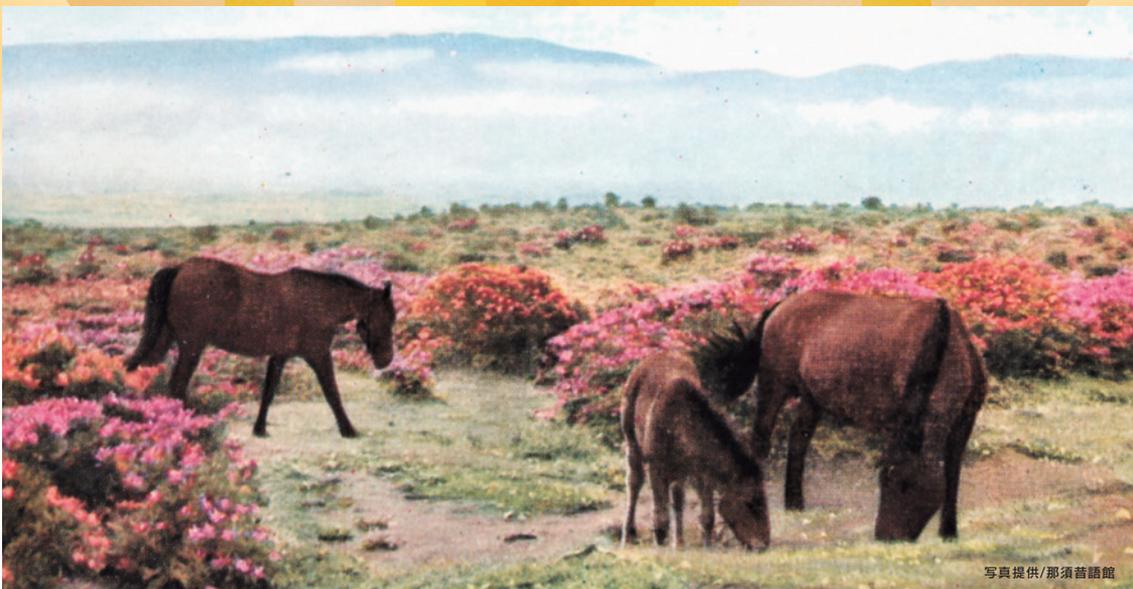
那須らしい風景は、かつての自然と人々の暮らしの葛藤の中で

紡がれて来た物語を

今に伝える奇跡の風景である。

かつて、那須連山の活動によって形成された那須の大地は豊かな自然をはぐくんだ反面、その荒々しさから人が暮らしていくためには過酷な環境でした。そんな中でも、日常生活を行っていくために、木々を伐採し薪炭林としての利用が行われてきました。また、火山性土壌がゆえに、土壌が薄く、保水力が弱い、田畑には向かない土地でした。そこで、軍馬や農耕馬としての那須駒の生産が人々の生活を支え、家族の一員として大切にされてきました。那須駒は南部馬をルーツに持ち、那須地方で育てられた馬の総称で、がっしりした体型と大きな蹄が特徴です。元々火山性土壌を好むツツジ類のため山頂付近でも多くのツツジ類を見ることができますが、那須岳山麓では馬を飼っていた歴史から、草原が維持され、さらに、馬がツツジの

毒を避けることにより、特異的に残って来たと考えられています。つまり、今の、若い木々が多く親しみやすい明るい森や、ツツジが咲き誇る那須らしい風景は、過酷な自然環境の中、先人たちが苦勞しながらも、知恵をしぼり、その土地にあった暮らし方を見出し、紡いで来た、自然と人の暮らしの葛藤の中でつくり出されて来た物語を今に伝える価値ある風景なのです。また、風景だけでなく、ツツジや那須駒を題材とし多くの芸術作品を製作されてきた作家・五十嵐豊さんの作品も、その物語を伝えており、今でも多くのファンに愛されています。なお、那須のツツジ類のひとつとして、シロヤシオ(ゴヨウツツジ)は、愛子内親王殿下のお印としても知られています。



写真提供/那須昔語館

八幡ツツジの那須駒



Nasu Interpretation's Action

3 人の物語

那須湯本地区に伝わる伝承

那須の風土を形づくったものは **2つの開拓** であり、

いまもなお西洋的な雰囲気や、他者を受け入れる

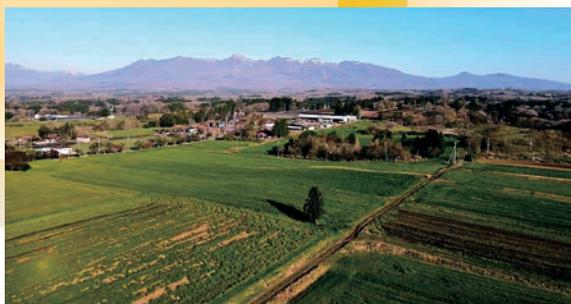
オープンマインドとして、脈々と受け継がれている。

那須の冷涼な気候は畜産に適し、酪農家のこだわりや努力により品質の高い牛乳が生産され、それらを素材に評価の高いチーズや、人気のお菓子が生み出されています。このような背景には、那須山麓では明治維新以降の政府や華族らによる西洋式の農場開拓から始まり、華々しい文化も生まれました。また、那須の開拓には、もう一つの物語があり、那須高原周辺では、戦後満州から引き揚げた開拓者たちが、厳しい寒さと荒野の大地に挑んだ場所です。彼らは作物が育たない酸性土壌に悩みながら

も、諦めることなく酪農に活路を見出し、ただ開拓するだけではなく、現地の人々との絆を深め、共に支え合いながら、この地に根を張っていきました。この精神は、現地の人々とも互いに助け合い、信頼を築くことで、戦後の困難な時代を乗り越える大きな力となり、今の那須エリアのオープンマインドや移住者を受け入れる土壌につながっています。那須の風景はまさに、彼らの希望と努力と調和の結晶であり、今でもその精神は息づくとともに、未来へと続く希望の地なのです。



千振中集乳所



今の千振牧草畑

Nasu Interpretation's Action

食材本来の**本物**の美味しさを味わえる那須は、
自然の恵みと生産者のこだわりが生み出した

「食材の宝庫」である。

那須の水や寒暖差から生まれた食材は、「食材本来の深みのある味」を楽しむことができます。おいしいだけでなく、目を閉じて食べると食材が辿ってきた背景すら浮かんできますよ。生産量全国2位の生乳から始まり、米・野菜・肉・川魚は那須を強く感じることができるでしょう。そのストーリーをお伝えします。元々の冷涼な気候を生かし酪農が盛んになり、特に首都圏の需要に応えるために生乳・牛乳が多く生産されてきました。それらの生産量を増やしていくためにも、交配は必要不可欠です。安心・安全を確保するために、交配には和牛が使用されたことから、おいしい和牛の生産も盛んになりました。ではなぜおいしい和牛が生まれたのでしょうか。その秘密に水とお米が関わっています。那須連山からのミネラル豊富な水を飲み、地元の良質な稲わらを食べさせることで、肉質が柔らかくなりました。そして、良質な肉は牛だけにとらわれず、うまみがギュッとつまった那須の豚肉も多く生産されるようになりました。肉本来の深みのある味わいが特徴の和牛や豚肉は、今では那須には欠かせないものとして定着しま

した。食材そのものの味を生かすことが得意な那須は、乳製品の質の高さにも定評があります。那須では牧場や道の駅、宿泊施設などで、様々な牛の種類のソフトクリームやヨーグルトを堪能することができます。また、中でもチーズにおいては、世界大会でトップ10にランクインするほどのおいしいチーズが那須から生まれています。普段食べているチーズとは一線を画すチーズを食べてみてください。思わず「うわあ、おいしい…」と身体から声が漏れることでしょう。拘りの食材は乳製品だけではありません。寒暖差を生かした高原野菜にも舌を巻くでしょう。生産量に限りはありますが、農家さんの拘りから生まれた高原野菜は独特で且つ繊細な味わいを楽しむことができます。最後に、これら那須の豊かな食材を支えているのは那須連山からの流れ出る水です。この豊富な水を思いっきり吸収した那須の米は、ふっくらした仕上がりにならないわけがありません。その米から生まれるお酒はもうたまらないおいしさです。そして那須の食材を下支えする水を運ぶ川に那珂川があります。実はこの那珂川は天然鮎のメッカとして釣り人たちからの人気は目を見張るものがあります。鮎が海付近から上ってくるといことは、それだけ那珂川の水質に魅力がある証拠です。その鮎が海のミネラルを少なからず運んでくることが、那須の豊かな大地を作り出して、質の高い食材をもたらしているのかもしれない。食材の宝庫の那須。ぜひご堪能ください。



なすべん



Nasu Interpretation's Action

山頂から山麓までの多彩な

那須の 自然体験 には、

紡がれてきた自然と人の物語が息づいている。

古から、那須連山が噴火を続け、また、源流から水がもたらされることで作られていった那須エリアの地形は、自然環境の多様性を産んでいます。山頂エリアでは、厳しいながらも美しい山岳景観が、また、高原エリアは、厳しい自然と葛藤しながらも人々の紡いできた暮らしの影響から、親しみやすく伸びやかな風景が、また、山麓では、古から続く、どこか懐かしい日本らしい里山風景が広がっています。

近年ではこうした多様性を利用して、自然を満喫しようとする人々も集まり、さまざまなアウトドアアクティビティの舞台として注目されてきました。那須連山では整備された登山コースがいくつもあり、中腹の森では自然観察やキャンプ場でのんびり過ごせ、川ではカヌーにシャワートレッキングなどアドベンチャー気分を満喫、これらの山から麓までの環境を風

切って駆け抜けるサイクリングなど、初心者でも楽しめる外遊びがいろいろと体験できます。広くはないエリアの中で、様々な自然を楽しめるアクティビティがギュッと詰まっているのが那須の魅力。それを体感してもらいたいと、体験を提供している施設・アウトドア事業者もさらに増えてきて、バラエティ豊かなアウトドア体験が楽しめる場となりました。開拓により拓かれた山麓部では酪農風景、平野部では美しい田園風景とともに、食や文化を中心とした多彩な体験も提供され、自然と人々の暮らしが近く、那須独特の空気感や季節の風景が訪れる人々を癒します。ほっと一息つきながらも、その背景となる、自然と人が葛藤しながらも光を見出して来た痕跡を通し、大地に刻まれた物語に思いを馳せる時間をお約束します。



パラグライダー体験



Nasu Interpretation's Action

那須特有の自然と風土そして多様な職人が織りなす産品は

心豊かに過ごす時間と空間を 生み出している

那須地域に独自のカフェ文化が開花したのは、歴史的背景と現代のトレンドが影響している。明治から昭和にかけて、多くの華族が那須に欧風の別荘を構えたことで、地域にハイカラ文化が生まれ、それが、カフェ文化発展に寄与してきました。那須の地の利である水は、超軟水であり絶妙なバランスを持っていることで、那須の水で淹れるコーヒーは他の追随を許さないとされている。そこに日本のカフェの聖地とされ全国から注目を集めるカフェを筆頭に、那須全体に多様なカフェ文化を形成している。それはカフェだけではなく多くの生産者がそれぞれのこだわりの素材をつくりだし、さらにそ

の食材を活かした加工品まで職人技とも言える様々なこだわりが反映された那須産が生まれています。また新たな人と自然の関わりを生み出すスタイルを体現する方たちも多く集まっています。那須の心豊かに居心地よく人生を過ごす地域空間には、多くの職人やアーティストが活躍し、那須を代表する医師であり作家の見川鯛山氏は2021年に舞台上演された「本日も休診なり」のモデルでもある。豊かな那須の自然を慈しみそこに住む人々を愛した見川氏の姿勢は現在のアーティストにも通ずるものがある。



見川鯛山さんの作品など



Nasu Interpretation's Action

移住

那須への

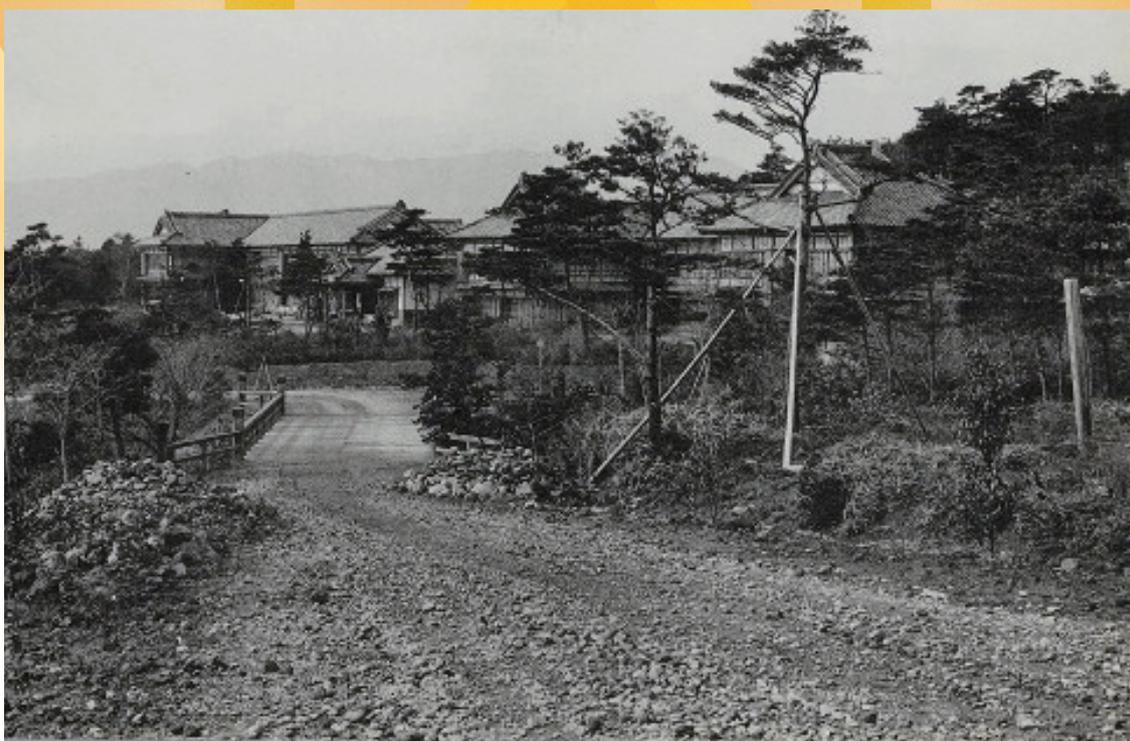
は、

那須の自然だけでなく、その**歴史に**裏付けされた**価値**と

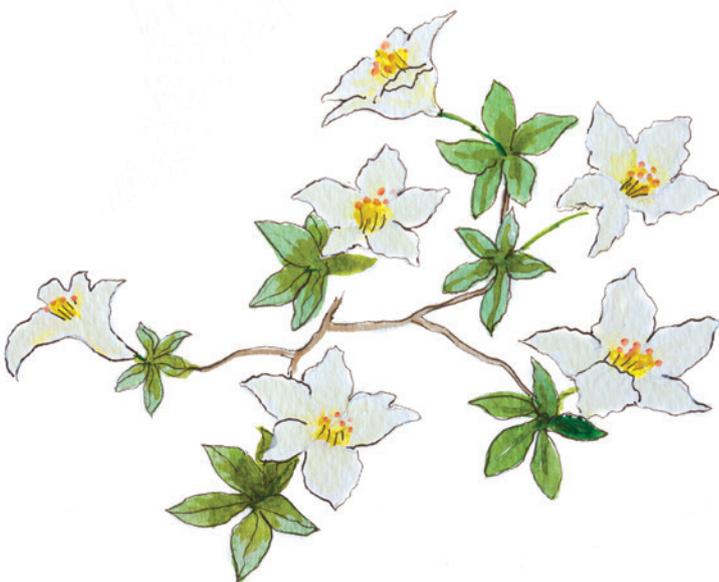
居心地の良さに身を置くことである。

那須エリアは、都心から程近く、新幹線等でわずか1時間とアクセスしやすい場所にありながら四季折々の大自然に囲まれた避暑地であり、青木別邸を代表とする個性的な別荘に多様な移住者が集う場所です。1926年(大正15年)7月、那須に御用邸が完成したことによって那須の自然景観などが評価され、広く知られるようになりました。プライベートが確保できる森の中の別荘地が多く、日本有数の別荘地となりました。かつての開拓の際に、入植者と地域の人たちが互いに助け合い、困難に立ち向かい、開拓して来た歴史があるからこそ、オープンで寛容な雰囲気があり、そんな雰囲気に惹か

れ、多くの移住者が訪れています。移住者は、那須連山を始めとした身近にある大自然の絶景、夏でも過ごしやすい気温の高原地帯で空が近く澄んだ空気があり、野生の鳥のさえずりで目覚め、自然ならではの様々なアウトドア生活を楽しむことができます。アーティストや職人も多く、地元のイベントやマルシェ、自然を生かした教育現場、おしゃれなカフェなどで親子3世代と犬連れの家全員で多彩な交流ができる点も魅力の一つです。天皇をも魅了した那須の魅力、美しさ、自然体になれる独特の居心地の良さの中での暮らしは、大きな価値と言えます。



新那須温泉



皇室が愛し地域からも愛された
那須のポテンシャル

4 御用邸の物語



なす爺は自然大好き。
時間を見つけては虫眼鏡片手に
動植物の観察に出かけるらしい。
「新種を発見して自分の名
前を付ける」のが目標で、今日
も山歩き。
那須の動植物を語らせたら右に
出るものはいない、らしい。

那須御用邸は那須の**自然と歴史**を象徴する

存在であり、現在の那須が持つ上質な雰囲気の源泉であり、豊かな自然環境に深く関わっている。

那須エリアは、昭和天皇が1923年(大正12年)に訪れ、その自然の美しさに感銘を受けて1926年(大正15年)に那須御用邸用地として選ばれた地である。那須御用邸は現存する全国の御用邸の中では最古で、昭和天皇を始め、代々の皇室の避暑、ご静養の場として利用されています。生物学者でもあった昭和天皇は那須御用邸を、生物研究の拠点としても発案され、毎年夏に1ヶ月間滞在し、那須岳に登山するなど、滞在中は専門家と共に様々な植物を調査し、栃木県の絶滅危惧種である「ナスヒオウギアヤメ」の発見、命名にも繋がり、「毎年、夏を那須で過ごす。六月に来たこともあるがごくわずかで、主として七月半ばから、九月のはじめまでである。それをしあわせとして、付近の自然を楽しむことにしている。」と自身の著書「那須の植物誌」の序文にも記されています。平成20年には当時の天皇陛下のご意向で、御用邸用地の約560ヘクタールが環境省に移管され、

「国民が自然にふれあえる場」として開園した「那須平成の森」では、皇室が愛した豊かな自然に触れることができます。

また、那須御用邸が置かれたことで、自然や景観の価値が評価され、それは、厳しい自然と葛藤しながらも暮らしを紡いできた地域の人々に大きな希望を与えたほか、避暑地、別荘地としての評価に、今もなお良い影響を与えているほか、御用邸に繋がるまでの那須街道の赤松林やアジサイ群等の景観の美しさが保たれているなど、那須の上質な佇まいの源泉にもなっています。

そして、今もなお、現役の御用邸として、毎年の皇族のご静養の地として使用され、昭和天皇の心情と皇室との深いつながりをはじめ、那須の人々にとっても、その自然と歴史を象徴するものなのです。



那須昔語館

那須御用邸



インタープリテーションとは

私たちの周りには、美しい自然や歴史ある建物、大切に受け継がれてきた文化など、たくさんの魅力的な資源があります。インタープリテーションは、そういった資源が持つ本当の価値や意味を、訪れる人の心に深く届けることです。例えば、山に咲く一輪の花を見たとき、「きれいな花だな」と思うだけでなく、「なぜこの場所にこの花が咲いているのか」「この花は周りの自然とどんなつながりがあるのか」という物語を知ることによって、その花への理解が深まり、より心に残る出会いになります。

インタープリテーションは、単に情報を伝えることではありません。その場所にしかない特別な物語を、訪れた人自身の経験や感覚と結びつけながら分かち合うことで、「なるほど」「だからなのか」という気持ちで地域の再解釈を生み出します。それは、目の前にあるものの表面的な説明ではなく、その背景にある深い意味や、他のものとのつながり、そしてそこに込められた価値を伝えられたからです。そうすることで、訪れた人は単なる「見学者」ではなく、その場所の物語を共有する「参加者」となります。また、インタープリテーションは、訪れる人それぞれの感じ方や考え方を大切にします。同じ場所でも、人によって異なる発見や感動があつていいのです。大切なのは、その場所との個人的なつながりを見つけ、自分なりの解釈を深めることです。

このように、インタープリテーションは、場所が持つ深い意味や価値を、人々の心に響く形で伝え、共有することで、一人ひとりにとってかけがえのない経験を生み出すものなのです。



那須地区における インタープリテーションの目的

インタープリテーション全体計画は、その地域でインタープリテーションを行う上での楽譜となるものです。音楽には、メロディーやハーモニー、リズムなど、様々な要素があるように、地域にも自然や歴史、文化など、たくさんの大切な要素があります。楽譜がそれらの音楽要素をまとめて一つの素晴らしい曲として表現するように、インタープリテーション全体計画も地域の様々な要素を一つの響き合う物語としてまとめています。

インタープリテーション全体計画は、地域の中にある大切なものや魅力的なものを見つけ出し、それらをどのように伝えていくかという大きな方向性を示しているに過ぎません。一つ一つの場所や物の説明の仕方を決めているのではありません。例えば、ある山の形や川の流れ、そこに暮らす生き物たち、そしてその自然と共に生きてきた人々の営みなど、様々な要素がどのようにつながり合い、その地域らしさを作り出しているのかを理解する手助けとなり、それらを伝えていくためのアイデアを考え出していく道筋となるものです。また、その地域に関わる様々な人たちが、同じ思いと目標を持ってインタープリテーションに取り組めるよう、その地域らしさや目指したい姿を示す役割も果たします。それは、演奏者全員が同じ楽譜を見て、心を一つにして演奏するように、地域の人々が同じビジョンを共有しながら、それぞれの役割を果たしていくことを助けます。

さらに、この計画は、地域の魅力を伝える方法や考え方を、時代とともに少しずつ変化させていくことも考えに入れてあります。それは、同じ曲でも時代によって新しい解釈や演奏方法が生まれるように、地域の価値を伝える方法も、社会の変化に合わせて柔軟に進化させていく必要があるからです。

このように、インタープリテーション全体計画は、地域のインタープリテーションをより良いものにし、長く伝え続けていくために必要な考え方のプロセスを示すものと言えます。それは単なる計画を書いた紙ではなく、地域全体でインタープリテーションを実践していくための楽譜のような役割を果たすのです。この楽譜があることで、地域の人々が協力し合いながら、訪れる人々の心に響く素晴らしい物語を奏でられることを目指しています。

インタープリテーション全体計画とは今みなさんが手にしているこの「那須を大好きになるストーリー集」のことなのです。

那須インタープリテーション全体計画

- 発行** 観光地域づくり法人(登録DMO)
一般社団法人 那須町観光協会
栃木県那須郡那須町湯本182
Tel.0287-76-2619 Fax.0287-76-3355
<http://www.nasukogen.org>
- 協力** 那須町と近隣の皆様
公益社団法人 日本環境教育フォーラム
一般社団法人 日本インタープリテーション協会
環境省 日光国立公園管理事務所 那須管理官事務所
- 制作** 那須IP計画編集チーム
- イラスト** 米倉万美

